

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、算数では「データの活用」の分野の平均正答率が低い。
- 国語では、「書く能力」については個人差がかなり大きい。描写の工夫や起承転結を意識した書き方など技術的には不十分である。
- 自分で学びを調整する児童が増え、主体性が向上しているが、しっかりとした目的意識を保たず、自分勝手に自己決定をする児童も見られた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 最後まで学習に取り組もうとする学習意欲の持続を引き続き図っていく必要がある。
- 「書くこと」では、目的や課題に応じて情報を取り出し、条件に合わせて書く活動を充実させる必要がある。
- 児童を的確に見取り、評価を行うことに難しさを感じている。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「できた」「分かった」「楽しい」などの充実感を感じることが出来る場を意図的・計画的に設定し、子供一人ひとりが、自己決定をして課題解決に取り組んだり、多様な集団の中で協働的に活動したりするなど、主体的に学ぶ環境づくりを進める。また、単に学習方法を変えるということではなく、育てたい資質・能力の育成（成果）を目的とする「学びの質保証」を意識した授業づくりを推進する。

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実および学びの質保証】

ア 子供一人ひとりの実態（特性や課題）に応じた学習活動の展開

イ 子供が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにする。

ウ Chromebook等、ICT機器を活用した学習活動の展開

エ 育てたい資質・能力の育成を明確にした授業づくり

※ アイウエの視点を基に、自由進度学習や自己調整学習等、子供が主体的に学び、教師は伴奏者となる授業の構築を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

- 各教科等の授業において、学習課題の設定から振り返りまでの学習過程を定着させる。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ICTを活用して、自分の考えを視覚的に表現し、他者と共有・比較することで多様な視点を育てる。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- 総合の特性を活かしながら自己調整学習を促進する。具体的には、「自分ごととして問いを立てる→探求の見通しを立てる→探究活動の中での自己調整→振り返りと次へのつながりを考える」過程を辿るよう促す。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

- 学びのエリアのめざす子供像「自律」「協働」をテーマにした授業実践・協議を行い、学習指導に生かす。
- 保幼小及び小中との連携を図り、小1ギャップや中学校へのギャップを軽減する。

豊かな心と健やかな体の育成

- 他者との違いを認め、互いに支え合うことで、お互いの自己肯定感や自己有用感を高められる子供を育てる。
- 道徳教育、人権教育、特別活動を相互に関連付け、日常の学校生活の中で実践していく。

多様な教育的ニーズへの対応

- 多様な集団の中で、目的達成のために、自らの判断で主体的に活動、改善しながら行動できる子供を育てる。
- 地域の教育活動を推進し、子供一人ひとりが、地域を愛し、主体的に地域に貢献しようとする心情及び態度の育成を図る。